

第14回「上尾道路（江川地区）環境保全対策検討会議」

の議事概要について

標記の会議が、以下のとおり開催されましたのでお知らせいたします。

1. 開催日時 平成26年8月29日（金） 16:00～18:00
2. 開催場所 上尾市文化センター 多目的室
3. 議事概要

1) 事業者説明要旨

①湿地保全プロジェクトチームの活動内容

- ・ これまでに開催した第1回～第5回湿地保全プロジェクトチームの内容について報告

②工事監視モニタリングの実施状況

- ・ 工事監視モニタリング地点及びモニタリングの流れについて報告
- ・ モニタリングの対応事例として、pH上昇への対応について報告
- ・ モニタリングの対応事例として、P1橋脚の施工時における出水への対応について報告

③特定希少植物の日照実験の結果

- ・ これまでの経緯と、特定希少植物の生存状況について報告

④特定希少植物の増殖実験の結果

- ・ これまでの経緯と、特定希少植物の生存状況について報告

⑤希少植物の移植

- ・ 希少植物の移植結果を報告
- ・ 湿地保全プロジェクトチームで議論した移植計画を報告

⑥地域の協働による維持管理活動

- ・ 地域との協働による維持管理活動について報告

2) 意見・助言の概要

項目	議事概要	
湿地保全プロジェクトチームの活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 排水処理計画については、動植物に影響が大きいと思うが、湿地保全プロジェクトチーム（以下、「湿地保全PT」とする）では報告となっている。（委員） この路面排水の処理の仕方というのは検討会議の中でも課題であり、議論すべきと思っている。湿地保全PTではどのような議論がされたのか。（委員） 	
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> 路面排水は油水分離後に上尾側は地中浸透し、桶川側は江川へ流す計画であったが、桶川側も地中浸透にしたほうが良いとの意見を湿地保全PTでいただいております、桶川側も地中浸透に変更している。
	<ul style="list-style-type: none"> 大事な環境に対して排水する時は、相当丁寧に浄化することが大事だ。千葉県の圏央道茂原第一トンネルでは、調整池を兼ねた浄化施設を整備した。（議長） その資料を出していただいて、検討会議で議論をしたいと思う。（委員） 排水計画の話は初めて聞いてショックを受けている。勉強し、良い方向にもっていきけるように議論する必要がある。（委員） 水質が気になる。関心を持っている。排水計画の資料が出された湿地保全PTでは、計画を出しただけで検討ということではなかったと思う。（委員） 	
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> 湿地保全PTで説明をして意見をいただいている。
	議長 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 油水分離では融雪剤などをまくと、塩分はとれない。地下に浸透すると湿地植物に影響がでる可能性があるため、もう一度しっかり見直したほうがいい。
工事監視モニタリングの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> pHが上がった時に検討会議を開いてもらいたかった。何度も申し入れをしたが、残念だ。（委員） 数値の監視レベルを変えたいと、連絡がきたことがあるが、よくわからない。このようなことは検討会議で専門家がいてところで検討する必要がある。検討会議と湿地保全PTを両輪のように機能させていっていただきたい。（委員） 上尾道路江川地区施工検討委員会があり、検討していたと思う。強酸性にあがったことがあるが、環境の専門家はいたのか。名前を教えてください。（委員） 	
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> 施工検討委員会を平成26年2月に開催した。平成25年11月の出水を何とかするために設置した。環境の専門家はいない。施工の専門の先生ばかりだ。
	<ul style="list-style-type: none"> 施工検討委員会に環境の専門家がいらないという状況なら、なおさらこのようなことを議論するために検討会議を続けていただきたい。もし碎石を使うことがわかっていたら、私は、会議で絶対反対していたから。（委員） 環境に配慮するところでは再生碎石は使わないのが普通だが、仕様書はどうなっていたのか？（委員） 	
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> 再生砂を使うことで発注していた。
	<ul style="list-style-type: none"> 再生砂だったら、もっと大変だったが、再生碎石でしょう。検討会議でわかっていたら、こんなことにはならなかった。そうすれば、供用開始は遅れなかったと思います、私たちも責任を感じている。今後については一緒にお互いにきちんと検討していきたいと、くれぐれもお願いしたい。（委員） 	
工事監視モニタリングの実施状況	議長 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> そういう意見が4人から出た。今後もよろしくお願ひしたい。
特定希少植物	<ul style="list-style-type: none"> 特定希少植物の大きさがトラスト地と違う。移植地のほうが弱々しい。（委員） 	

項目	議事概要	
の日照実験の結果 特定希少植物の増殖実験の結果	<ul style="list-style-type: none"> 環境科学国際センターで以前見た特定希少植物は頑丈であった。今年は県庁で展示しているのを見たが、4年目でひ弱になっている。増えても安心できない。(委員) 	
	議長 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> これもわかるようなデータのとり方が必要と思います。大きさを計るということも意識したほうがよい。
希少植物の移植	<ul style="list-style-type: none"> 移植時期、種類、工法の違いがあるのに。組み合わせさって結果が見えない。それぞれの工法で1年目、2年目を比較してはどうか。また、移植時期によって比較して整理するとわかりやすいと思う。(議長) 移植に際して増殖をしておくなど保険をかけることが必要。成績の悪い種や工法を整理しておく、移植が難しい種は危険性を伴うから、例えば増殖をしておくとか、個体数を増やしておいて、何かあったときにも大丈夫なようにしておくとか、次の段階で考えるべきことが出てくると思う。(議長) 移植について湿地保全PTで議論されたと書いてあるが、成績が悪いものもあるということは、移植は非常に危険なのだとすることを前提に、もう少し慎重な検討が必要だったと思う。(委員) 第13回会議で湿地保全計画を検討会議に諮るとのことだったはずなのに、なぜ諮らないでプロジェクトでそういう表土移植をやってしまったのか。(委員) 	
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> 湿地保全PTの役割に入るが、実施メニューに湿地保全PTで湿地保全計画を立案することとなっている。 この表土の移植は、あくまで植物を移植するため。
	<ul style="list-style-type: none"> どこの土をどこへ持っていったらもっと効果的とか、そういう話ができるのではないか。だから言っている。(委員) 第13回議事録は何回も読んでいます。その中で亀山議長が「植生の詳しい状況について資料を出してください」と言っているが、資料が出ないまま移植が始まった。(委員) また、湿地保全計画に関しては検討会議にかけて指導、助言を仰ぐという共通の認識が議事録にははっきりと書いてある。それがないままいつの間にかPTでどんどん先行しているのは、検討会議をどのように考えているのか。砂利の問題もそうだが、皆さんいろいろ心配はしていたと思うが、会議がないままに今なっている。移植も含めた湿地再生計画だったと思う。なぜ検討会議が行われなかったか残念だ。(委員) 	
議長 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 湿地保全PTで湿地保全計画を立案し、検討会議にかけていただくことになっている。その計画に基づき移植を再度行うと思っていたが。 	
希少植物の移植	議長 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 第5回湿地保全PTで湿地保全計画の検討を行っている。保全計画を先に立てて移植をするというのが、順序が逆になっている。緊急避難的な移植かもしれないが、先に移植して後から計画を作っているという逆になっているのが問題であるという指摘だ。やり直すことはできないが大事なことであり受け取っていただきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 今後については、湿地保全PTで先行することがないように、ぜひお願いをしたいと思う。(委員) 	

項目	議事概要
議事全体	<ul style="list-style-type: none"> • これまでの議論から、P Tの問題は私も感じていた。結局P T開くときに、いろんな計画が既にできてしまっていて、これどうですかという形だ。(委員) • 湿地保全計画をつくる段階では、現場を見ている湿地保全P Tのメンバーに概略をつくってもらい、詳細を事務局がバックアップするかたちでできないか。(委員) • 特定希少植物の生育が徐々に弱くなっているという報告があるので、リスク分散が必要だと思う。道路の周辺は重要ですがけれども、視野を広くもって考えてもらいたい。(委員)
議長 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> • 湿地保全P Tを辞めた方もいらっしゃいますが、戻っていただき、これから湿地保全P Tをしっかり進めていただきたいと思います。 • 検討会議が必要であるとの意見を皆さんからいただいた。大事なことが結構たくさん出てきそうなので、ぜひ、あまり間をあけないで、この会議を開催して頂きたい。いろいろ判断するときには、この会議を開き、円滑に事業を進めるようにお考えいただくことが大事ではないかと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> • 一部委員に湿地保全P Tを開くとの声がかからないのはなぜか。(委員) • 湿地保全P Tでは、上尾と桶川の両方の人を入れてやる必要がある。(議長) • 私たちが湿地保全P Tに入っていたら、桶川の植物を上尾にもって行くことはなかった。それ自体も非常に問題だが、湿地保全P Tを編成し直すことと、検討会議との両輪の関係をもって運営してもらいたい。(委員)
議長 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> • 何か手違いで外れてしまったのかもしれないが、この関係者の方皆さんに入っただき、もう一度ちゃんと正常に運営していただくことと同時に、検討会議と湿地保全P Tは両輪の関係をもって、齟齬がないように進めてもらいたい。
	<ul style="list-style-type: none"> • 最後に、「亀山議長のもとで、上尾道路（江川地区）環境保全検討会議を正常化し、環境保全対策を継続して取り組む要請書」に皆さん署名頂いている。 <p>上尾道路（江川地区）環境保全検討会議（以下検討会議）は2012年5月の第13回会議以降、丸2年2ヶ月開催されず、その後の工事着工以後も、一切開かれて来ませんでした。</p> <p>一方、「湿地保全プロジェクト」は5回も開かれ、この間上尾道路のホームページでも盛んに紹介されています。その実施メニューとして、「湿地保全計画策定、湿地の整備・管理とモニタリング・改良」となっていますが、位置づけは「検討会議の中で認めた裁量権の範囲内でプロジェクトチームが動く」（第13回会議）となっています。なぜなら、検討会議は「専門的立場から助言すること」になっているからです。</p> <p>しかし、実際には両者は位置づけ通りに動かず、その結果、再生砕石の使用による強アルカリ土壌による水質悪化、湧水を矢板で遮ったことによる湿地の乾燥化などが明らかになり、その対応で上尾道路の供用開始が遅れてしまいました。このような事態は、大宮国道事務所ばかりでなく、検討会議の委員である私たちにも責任があると考えています。</p>

項目	議事概要
議事全体	<p>この度、これらの経緯を踏まえて、亀山議長のご尽力により、やっと第14回検討会議を開催されることになりました。この間、自ら現地に足を運ばれ、会議開催にご努力された亀山議長に改めて敬意と感謝の念を表します。また、今後は二度とこのような環境悪化をもたらす事の無いよう、改めてその責任を果たす決意であることをお伝えいたします。</p> <p>つきましては、この地域の貴重な自然環境を将来に引き継いでいくと、いう私たちの熱意を真摯に受け止めていただき、以下のことを要請します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 検討会議の設立趣旨である「自然と共生する道路事業」のため、工事や供用開始による環境悪化を回復するため、検討会議を継続的に開催すること。 2 検討会議は、引き続き亀山議長にその任を担っていただくこと。 3 良好な環境に重点を置いた地域づくりを継続的に実施すること。(委員)
議長 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> • 私に続けろと言われるのは酷だが、今言われたような皆様のご要望を、十分くみ取っていただきたいと思うので、よろしく願います。
事業者	<ul style="list-style-type: none"> • いただいた意見につきましては、議長と相談させていただく。